

# 住民と専門家が混在する「すいまち研」 ～活動の多様性と首里への揺るがぬ想い～



地域での議論を大切にしながら百年先を見据えた  
首里まちづくりに取り組む

(中央の写真:右側から伊良波 朝義理事長、平良 斗星副理事長/左右の写真:首里金城町石畳道©沖縄観光コンベンションビューロー)

## 特別企画紹介

NPO法人首里まちづくり研究会は、2005年に創設され、「すいまち研」の愛称で首里のまちづくりをリードしている団体です。

また、本年度からスタートした「首里城再興研究プロジェクト」において、国際地域創造学部の越智正樹教授、工学部の小野尋子准教授が共同で行っている「重層的な首里歴史まちづくり」研究プロジェクトにも協力いただいています。

今回は、首里・龍潭向かいにあるすいまち研の事務所に伺い、伊良波朝義理事長、平良斗星副理事長から「すいまち研」の理念とその実現に向けた活動を聞かせていただきました。

この記事は、2020年8月17日に行ったインタビュー記録をもとに富永が構成したものです。

## 歴史が薫る風格のあるまちを 次の世代につないでゆく

聞き手：富永千尋（研究企画室 特命教授）

東 香純（大学本部 企画調整役付専門職員）

8月8日にすいまち研が主催した「観光と首里まちづくりシンポジウム」は、YouTube配信で600名を超える視聴数となり、首里まちづくりに大きな関心が寄せられていると感じました。注目を集める「すいまち研」とは、どのような組織なのでしょうか。

【伊良波】首里のまちは約600年の年月を重ねてつくられてきました。歴史が薫る風格のあるまちを次の世代につないでゆくの私たちの役割だと考えています。

【平良】最近、すいまち研はとても忙しい。メンバーは皆ボランティアです。シンポジウムやワークショップ、会議が重なり、メンバーはボランティアの域を超えて活動していますが、今の活動は

今後の百年に繋がることなので頑張り時だと考えています。

「すいまち研」が発足したのはどのような背景があったのでしょうか。

【伊良波】きっかけは1999年に始まった龍潭通りの拡幅工事です。道路拡幅で道沿いの建物が大きく様変わりすることが分かりました。その頃に建築士会首里支部で、これからのまちなみについて議論を始めました。ところが活動を始めてしばらくしてメンバーに地元の人がないことに気付きました。このままだと住民が何を求めているのか聴くことができないのです。

ちょうどそのころ、観光ボランティアのグループがあり、お互い首里の将来を危惧していました。そこに両者の一致点があり、いっしょにやってみようということで2005年に首里まちづくり研究会が発足しました。

【平良】私もそのころにすいまち研に参加しました。首里にあった琉球大学の移転と首里城の復元によって、まちの構造は大きく変わりました。当時の龍潭通りは商店街で周辺には下宿も多かったと思います。戦前の龍潭通り周辺は屋敷町でした。今となっては戦前と同じ風景に戻ることはできないと思います。

まちづくりがどこを目指すかによって商店街のあり方やまちなみも変わってゆくの、地域の中での対話によって目指す姿を描き進めてゆくしかないと思います。

【伊良波】龍潭通りの拡幅工事では、歩道を1.5mから3.5mへ拡幅することになりました。

舗装は擬石の亀甲張りが計画されていたのですが、私たちは金城町の石畳のように本物でつくるべきだと考えました。また、道路沿いの建物の建て替えにともなう歩道改修工事も想定して、道に対して直角の敷石配置を提案しました。100年先を見据え、その間に補修工事があっても歩道がパッチ状にならないように工夫した工法です。この提案は採用され、首里の風格のある景観のひとつになっていると思います。



(敷石が直角に配置された歩道／写真提供：富永 千尋)

現在、龍潭通り（県道29号線）は最後の100m余りの区間を整備中です。県道に繋がる枝道は那覇市が整備しています。舗装や標識の色などについての提案をすいまち研と古都首里のまちづくり期成会を中心に行っていて、道路沿いのポケットパークのデザインも県立芸術大学の先生が中心になり、すいまち研等も参画して進めています。

行政主導ではなく、住民との意見交換によりまちづくりを進めていくことを行政も求めていたと思います。活動を重ねることで信頼関係が築かれてきたと思います。

首里城周辺道路への一般車両の乗り入れ規制なども、今後話し合っていかなければならないテーマだと感じています。

「観光と首里まちづくりシンポジウム」で登壇した安里進先生（沖縄県立芸術大学名誉教授／沖縄県立博物館・美術館前館長）は、首里城の「美」について述べておられました。首里の美しさ、地域で共有している美とは何でしょうか。

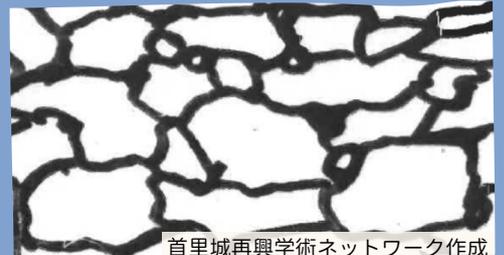
【伊良波】石が特徴だと思います。首里では野面積（のづらづみ）はほとんどみられず、布積（ぬのづみ）や相方積（あいかたづみ）、アーチ門など手の込んだ石積みによりつくられている洗練された曲線やふくらみが特徴です。石工の技術もすばらしく世界に誇れる技術だと思います。



@OCVB

## 野面積

自然石を加工せず、積み上げたもの。石の形やサイズが均一でない。



首里城再興学術ネットワーク作成



写真素材：ばんない堂

## 布積

継ぎ目が横に一直線になるよう、長方形に整えた石を積み上げたもの。



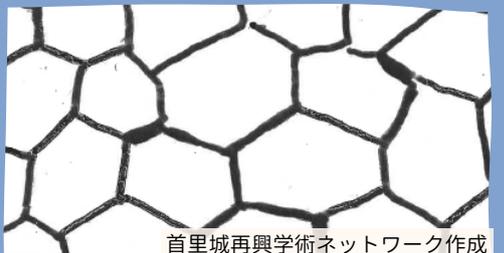
首里城再興学術ネットワーク作成



@OCVB

## 相方積

多角形に加工した石同士が噛み合うよう積み上げたもの。



首里城再興学術ネットワーク作成



@OCVB

## アーチ門

なめらかな弧を描くよう組み上げた石門。（写真は首里城 歓会門）



@photoAC



@OCVB

## 曲線や反り

首里城の城壁にも曲線や曲面、反りなどを見ることができます。



@OCVB

首里城は内郭が15世紀初期、外郭は16世紀中期に完成されたといわれています。織田信長が、その後の築城に影響を与えたといわれる高石垣に城が囲まれた安土城を築城したのが1576年とされていますので、それ以前に高度な石垣の技術が完成していた琉球王国では、独自の技術や文化の発展があったことがわかります。

【平良】首里は琉球石灰岩の産地で、ニシムイ（儀保周辺）、大中など調達できる場所がありました。舗装されていなかった昔の首里の道は、白くまぶしかったのを覚えています。

【伊良波】戦争で首里のまちなみの多くは破壊されましたが、首里城の南側にある金城町は幸い戦火をまぬがれ戦前のまちなみが残っています。那覇市は歴史的なまちなみを残すため、石畳を市道とし石垣を道路構造物として一体的に保全する画期的な措置をとりました。そのおかげで現在も歴史と風格のある景観が残されています。

首里に住んでいる人の意識は高く、庭づくりや通りの美化は観光への対応とは別次元の意識で行われていると感じています。そこには歴史的・文化的な流れが根底にあり、新しく首里の住民になられた方々にも首里の歴史・文化を共有してもらおうことが持続的なまちづくりにとって重要と考えています。

今年の7月から首里の歴史や伝統、文化を学ぶ場として「すいまち塾」を開講しています。月1回の講義を5回開催し、最後は学びの腕試しができる「すいまち検定」で認定する事業です。こういったプログラムを通して沖縄・首里の魅力を理解し伝えることができる人材を育成してゆきたいと思います。

すいまち研の活動は多様な人材に支えられていて、関係者を巻き込む求心力があると感じていますが、活動の繋がりや広がりについて教えてください。

【平良】NPOは特定の分野に特化する傾向が強いので基本的には専門家集団・技術者集団といえます。すいまち研は建築士会のメンバーに住民が参加することからスタートしたので、ちょうど混ざり具合がよく、新しいメンバーが別の人を巻き込みながら広がってきました。

【伊良波】すいまち研への入会は首里愛があればOKです。ウェブが得意な人は広報、仕切りがうまい人はコーディネート、観光が強い人は観光施策の提案など、それぞれの能力を持ち寄って楽しくやっています。関わっているメンバーが楽しく活動できる環境をつくること、楽しんでいる雰囲気発信することが会の求心力になっていると思います。

元琉球新報記者の桑江良勝さんが、首里まちあるきツアーを担当しています。とても人気があり、まちあるきをきっかけに、すいまち研に入会する人もいます。

採蜜体験もやっています。首里金城町で昔から養蜂を営んでいる新垣養蜂園に協力してもらい、ミツバチの生態を学び首里の自然環境を学ぶ環境学習を行っています。首里ブランドの蜂蜜をつくりながら緑化にも役立つということで住民説明会を重ね、巣箱の設置場所を増やしてきました。採集された蜂蜜は首里や周辺ホテルでの販売や那覇市のふるさと納税返礼品として、経済の活性化にも一役かっています。養蜂家の新垣さんは、すいまち研の事務局次長としても活躍されています。



上:首里地区で採集された"首里王朝蜂蜜"  
(すいまち研WEBサイトより)

下:蜜源となるセンダングサ(左)とサンニン(右) (@photoAC)

様々な活動への展開は、明確な戦略に基づき進められている印象を受けます。「すいまち研」の活動や取組で大事にしている軸はなんですか。

【平良】「首里ミツバチ・花いっぱいプロジェクト」では、養蜂を通じ、色とりどりの花の咲く首里まちづくりをめざしています。自宅の庭を花いっぱいにするのは景観に直接跳ね返ってくるので、このプロジェクトは景観NPOとして取り組む意義があります。

【伊良波】メンバーが多様なことも重要です。同じ職種だとアイディアは限られてきますが、職種が多様だとアイディアも豊かになります。アイディアの芽を発展させ、つなげる環境がすいまち研には整っているのではないかと思います。

【平良】現在、会員は60名余りになるので、それぞれのメンバーが地域活性化のアイディアをたくさんお持ちです。ただ、すべてのアイディアを具体化するのではなく、すいまち研は景観をテーマにしたNPOなので、風格、審美、本物を使うといったキーワード・規範があります。このことを大事にしているので、自然とテーマに沿ったアイディアが育っていると感じます。

【伊良波】景観形成の一例として、鳥堀にある電波塔のケースがあります。電波塔の色に関する規制緩和を受け、首里の風景になじむ電波塔の色についての相談がNTTドコモを通じて那覇市からすいまち研等にありました。最初は沖縄の空をイメージした明るい青色の案だったのですが、建築の現場で培った経験から、実際の沖縄の空は午後になると雲が多いという事実に基づき、曇天と首里の風景になじむグレーを提案し採択していただきました。



左:修景前の電波塔、右:修景後の電波塔  
(すいまち研WEBサイトより)

## 沖縄は意外に曇りがち？

伊良波理事長の「沖縄の空は…雲が多い」とのお話が、とても興味深かったので、気象庁WEBサイトから那覇の10年分（2010年~2019年）の雲量データをダウンロードして、右の月別の表にしました。

雲量とは、雲が空を覆っている分量を10段階で示すもので、雲が全くない場合を0と表します。なお、気象庁の判定基準では、雲量が8.5以上が「曇り」となります。

右の表から、平均的な沖縄の空は75%を雲が覆い、1か月のうち半分の日、空の85%以上を雲が覆っていることがわかりました。伊良波理事長のおっしゃるとおり、沖縄の空には雲が多いようです。

### 那覇の雲量

(気象庁/2010年~2019年データ)

月	平均雲量	平均雲量8.5以上の日数
1	8.0	17.9
2	7.9	16.1
3	7.4	14.3
4	7.9	17.1
5	8.2	18.8
6	8.3	18.0
7	7.0	10.5
8	6.8	10.5
9	6.6	9.7
10	6.6	10.5
11	7.3	12.4
12	7.8	14.9
平均	7.5	14.2
単位	(10分比)	(日)

## 最後に、これからの活動の豊富を聞かせてください。

【伊良波】沖縄県の復興基本計画は、直近の課題解決がテーマになっている印象を受けます。課題解決はもちろん大事です。しかし、その先の未来を見て、孫子の代にはこういった首里のまちにしたい、こういった首里のまちをつくりたいという想いを表す「首里まちづくり憲章」のようなものを作る必要があると思います。わかりやすい言葉でみんなの想いがひとつになれるような標語のようなものです。竹富島憲章は50年前に作られましたが、それが守られているおかげで今の竹富島の風景があります。

今年6月には、首里のまちづくりに関係している6団体で構成する「首里杜地区まちづくり団体連絡協議会」も立ち上がりました。皆で考え、首里まちづくりの将来を目指す言葉をみつけないかと思っています。次のシンポジウム（10月17日開催予定）までに芽出しをし、行政のパートナーとなる那覇市にも届け、同じ目線でまちづくりを進めたいと考えています。

【平良】国や県の復興計画で大きな部分を占めるのは正殿の復元だと思いますが、周辺のまちづくりも重要な取り組みになります。

まちづくりについては、道路や都市計画など沖縄県と那覇市をまたいだ形の取り組みが必要になるので、例えば県の復興計画が那覇市の都市計画につながるような橋渡しが必要です。その際、住民が合意していて構想の実現を求めているということが最大の後押しになると思います。

ちょうど今機運が盛り上がっているので、このタイミングをうまく活かし、地域での議論を大切にしながら百年先を見据えた首里まちづくりに取り組んでいきたいと思っています。  
(了)

[NPO首里まちづくり研究会（すいまち研）HP](https://www.e-sui.com/) 【URL】 <https://www.e-sui.com/>

[すいまち研 Facebook](https://www.facebook.com/suimachiken/) [@suimachiken] 【URL】 <https://www.facebook.com/suimachiken/>

「地域を巻き込む多彩な企画と取組は、どのような理念に基づいているのだろうか？」今回の「すいまち研」へのインタビューは、この想いから生まれた企画です。

インタビューを通して、伊良波理事長、平良副理事長からは首里が育んできた文化やその歴史を大切に、矜持を持って行動する姿勢がうかがえました。「すいまち研」では、この価値観の共有がブレのない多様な活動につながっているのではないのでしょうか。これは、私たちネットワークの今後の活動に不可欠な観点ではないかと思っています。

最後に、お忙しい中、対応いただいたお二方に、この場を借りてお礼申し上げます。

[首里城再興学術ネットワークウェブサイト](https://www.shuri-net.com/)、Twitter、Facebookでは、首里城再興に関する学内外のトピック等をご紹介します。是非お立ち寄りください。

【ウェブサイト】 [https://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/shuri\\_top.html](https://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/shuri_top.html)

【Twitter】 [https://twitter.com/ShuriNet\\_Ryukyu](https://twitter.com/ShuriNet_Ryukyu)

【Facebook】 <https://www.facebook.com/ShuriNet.Ryukyu>

このインタビュー記事に関するご質問やご意見は、首里城再興学術ネットワーク (SHURI\_NET@ACS.U-RYUKYU.AC.JP) へご連絡ください。

# 首里城再興 学術ネットワークについて

琉球大学は、学術的な立場から首里城の再興に貢献します。

首里時代を伝える石碑など



首里城公園にある琉球大学跡の石碑



琉大構内の首里城の碑



この碑は、首里時代のキャンパス本館の横に設置されていました。

以下は、碑の裏面の日本語訳文です。

〔沖縄戦で跡形もなく破壊された首里城は、1166年から1879年の間、琉球国王の居城であった。琉球王国がその黄金時代を誇った1477年から1526年にかけて、壮麗な建造物が構築された。現在は、琉球大学の本館が、その首里城正殿跡に建っている。〕

## 組織の枠を超え首里城再興に学術面から 貢献するプラットフォームを目指して

"琉球大学は、1950年、沖縄戦により灰燼に帰した首里城の跡地に創設された。"

2007（平成19）年5月22日に制定された琉球大学憲章前文は、この一文から始まります。琉球大学（以下、本学とする）は、開学から前回の復元事業の本格化に伴い現キャンパスへ移転するまでの約30年間、首里城跡地で教育研究活動を行ってきました。

2019年10月31日の火災による首里城の焼失は、首里を発祥の地とする本学にとっても大変悲痛な出来事であり、国内外の多くの皆さまと悲しみや再興に向けた熱意が絢交ぜになった「想い」を共有しました。

火災当日、本学は学長のメッセージとして、首里城再建への協力を表明するとともに、学術面からの貢献を目指し、12月22日に「首里城再興緊急学術シンポジウム」を開催し、首里城再興に関する学術ネットワークを構築することが提案されました。

これを受け、2020年1月に「首里城再興学術ネットワーク」（仮称）の設立に関する学長諮問に基づき、本学研究企画室に首里城再興学術ネットワークを立ち上げ、ポータルサイトやSNSなどによる学内外の情報発信を行うとともに、3月10日には「首里城再興学術ネットワーク構築に向けた現場視察」を行うなど、学術ネットワーク構築に向けた取組を進めています。

本ネットワークに関する詳細は、コチラをご覧ください。

### 【これまでの主な取組】



首里城再興緊急学術シンポジウム  
(2019.12.22)

### 首里城再興 学術ネットワーク

琉球大学は、学術的な立場から首里城の再興に貢献します。

ポータルサイト開設



首里城再興学術ネットワーク構築に  
向けた現場視察 (2020.3.10)

### 首里城再興研究プロジェクト

#### 琉大学内公募研究 ～令和2年度採択決定

「首里城再興学術ネットワーク(仮称)の設立(準備中)を踏まえ、首里城再興に貢献する研究を推進することを目的としたプロジェクトを立ち上げます。首里城の再興とどのように関連するのかを明確に提示した研究を実施する予定です(現在、学内で支援研究を公募中)。

本プロジェクトは琉球大学の教員を対象としていますが、本ネットでは、組織の枠を超え首里城再興に学術面から貢献することを目指し、他大学や学外組織と連携した提案も可能です。

首里城再興に貢献する研究と言っても、その課題は多岐にわたって考えられます。例えば、沖縄県の「首里城復興の基本的考え方」には、首里城の復元はもとより首里城に象徴される琉球の歴史・文化の

首里城再興研究プロジェクト学内公募

## 首里城再興学術ネットワーク

【ポータルサイト】 [https://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/shuri\\_top.html](https://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/shuri_top.html)

【Twitter】 [https://twitter.com/ShuriNet\\_Ryukyu](https://twitter.com/ShuriNet_Ryukyu)

【Facebook】 <https://www.facebook.com/ShuriNet.Ryukyu>

【メルマガ】は、右のQRコードまたは、**↓メール↓**でご連絡ください。

琉球大学 首里城ネットワーク担当  [shuri\\_net@acs.u-ryukyu.ac.jp](mailto:shuri_net@acs.u-ryukyu.ac.jp)



Twitter →

← ポータルサイト



Facebook →

← メルマガ登録

